

令和7年度信州まつもと空港搭乗者アンケート調査
定期便(新千歳便・福岡便・神戸便)(令和7年8月～令和7年10月)における利用者の動向

- 1 実施期間 令和7年8月～令和7年10月(期間中の計92日間)
- 2 調査方法 ウェブアンケート
(信州まつもと空港搭乗待合室にアンケートフォームへアクセスする二次元コード付きのチラシを掲示)
- 3 調査対象 信州まつもと空港定期便の出発便の搭乗者
- 4 有効回収票数 合計 965票

福岡便(2便)	253票
新千歳便(2便)	136票
神戸便(2便)	342票
- 5 アンケート期間中の搭乗者数(利用率)

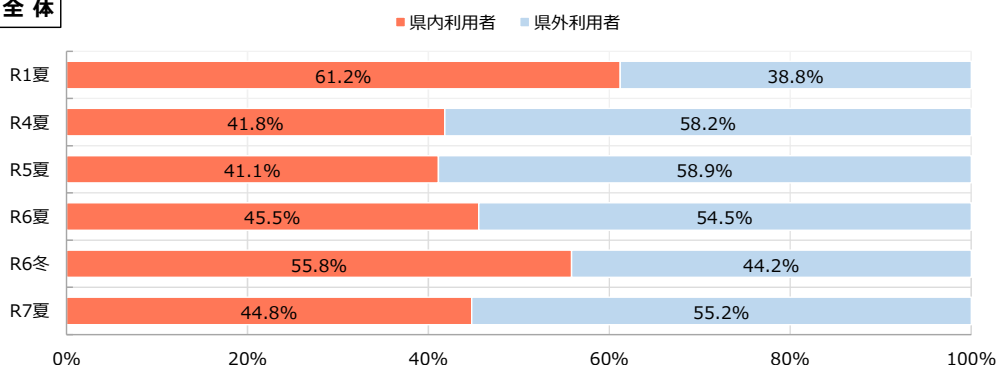
福岡便	26,062人(84.3%)
新千歳便	14,314人(92.7%)
神戸便	23,087人(77.3%)
- 6 その他
 - ・令和4年度から調査方法を聞き取り方式からウェブアンケート方式に変更
 - ・令和6年度より夏期と冬期の2回の実施に変更
 - ・令和7年度よりアンケート方法をながの電子サービスからMicrosoft Formsに変更

【県内・県外利用者の状況】

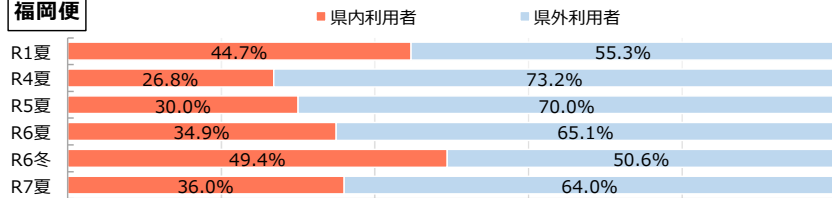
令和7年度の夏アンケートにおける定期便全体では、**長野県内利用者の割合が44.8%、県外利用者の割合が55.2%**となり、県外利用者がやや高い結果となった。一方、**R6冬では県内利用者の割合がやや高く、本調査とは逆の傾向**が見られた。これは、**夏季に長野への観光需要が増加**することが要因と考えられる。

路線別に見ると、**新千歳便では8割以上が県内利用者**であり、これまでの結果と同様に、長野県から北海道への高い需要が表れている。**福岡便、神戸便はいずれも県外利用者の割合が多い傾向**にある。また、**R7夏の神戸線については、R6夏と比較して県内利用者の割合が3.4%増加**している。これは、**大阪・関西万博の開催により、関西方面へのアクセス手段としてご利用いただいたことが考えられる。**

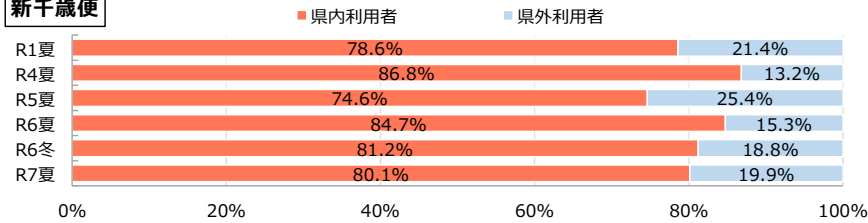
全 体



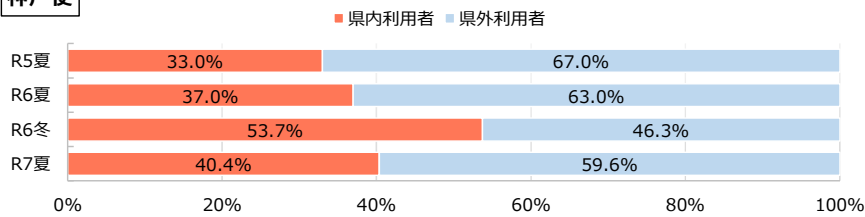
福岡便



新千歳便



神戸便



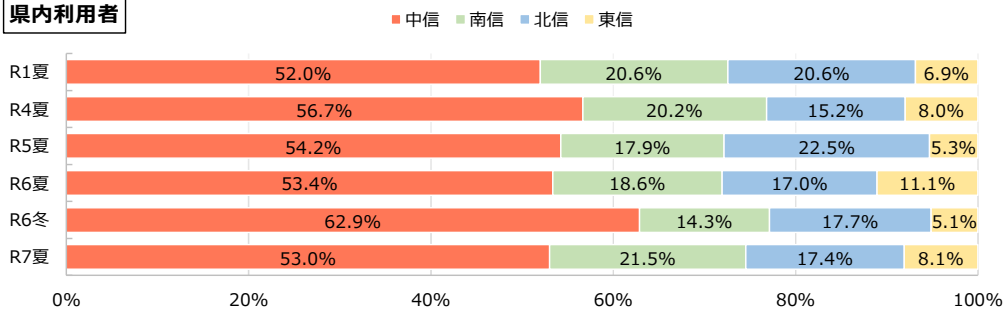
【利用者の居住地】

居住地別に見ると、**県内利用者のうち53.0%が中信地域の居住者**であり、これまでと同様に県内利用者の半数以上を中信地域が占める結果となった。

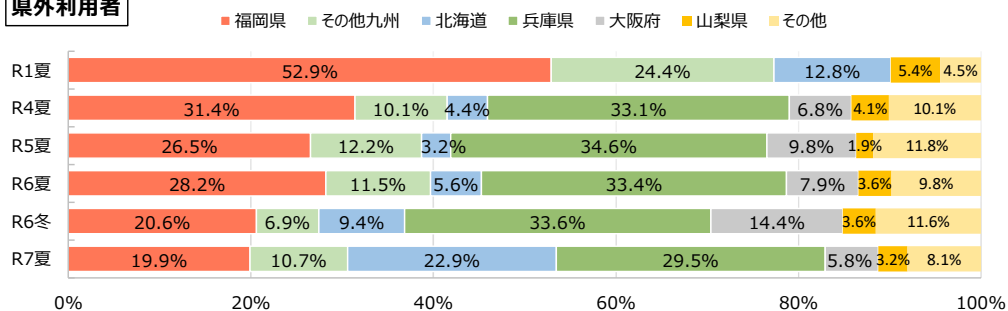
県外利用者で最も割合が高いのは兵庫県の居住者（29.5%）であり、**関西方面における広告宣伝・イベント実施等により路線認知度が向上し、安定した利用者確保に繋がっている**。また、**北海道居住者の割合は22.9%となり、R6夏と比較して17.5%の増加が見られた**。これは、団体旅行商品の増加が北海道からの送客拡大に一定程度寄与した結果であると考えられる。

就航先以外では、**山梨県の利用者が県外利用者全体の3.2%を占めている**。甲府から松本空港までは車で約60分と交通アクセスが良く、**山梨県内でラジオや新聞を活用した利用促進を実施していることから、一定数の山梨県からの利用者を確保できている**と考えられる。

県内利用者



県外利用者



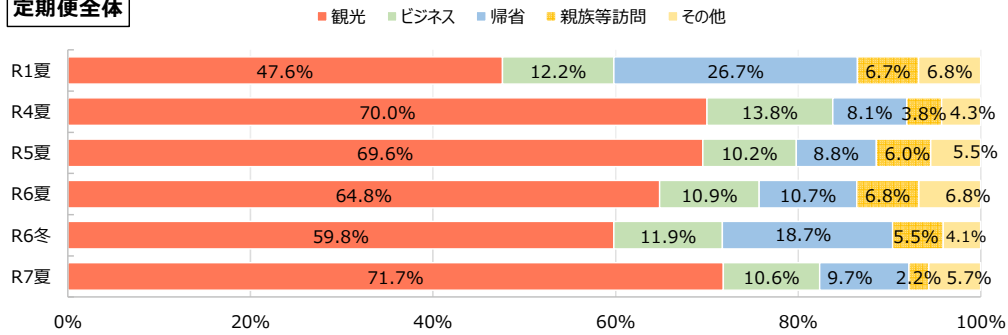
【旅行目的】

旅行目的別に見ると、定期便全体では「観光」が71.7%と最も多く、過去5回のアンケート結果と比較して最も高い割合となった。次いで「ビジネス」、「帰省」の利用割合がそれぞれ約10%となっている。

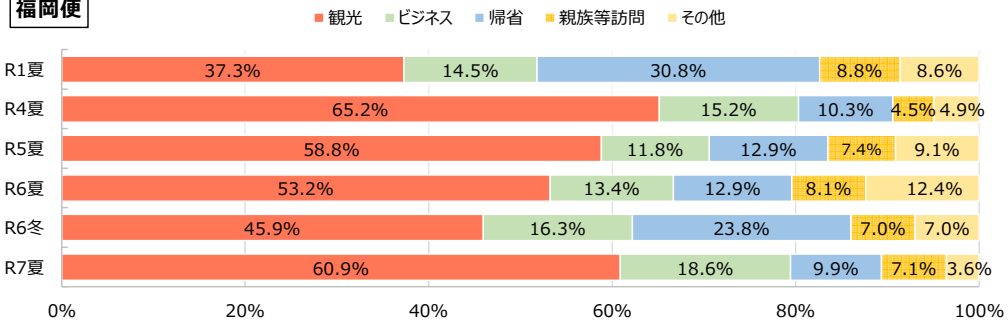
路線別では、いずれの路線も「観光」の割合が最も多い傾向にあるが、中でも神戸便はR6夏と比較して「観光」の割合が8.8%増加している。令和7年度は大阪・関西万博を目的とする旅行商品も多数販売されており、その影響が大きいと考えられる。福岡便では「ビジネス」利用者の割合が18.6%と高い水準にあり、観光だけでなく路線需要も確認できる。

また、R7夏とR6冬を比較すると、全路線で「観光」の割合が高くなる傾向があり、夏季における観光需要の高さが表れている。

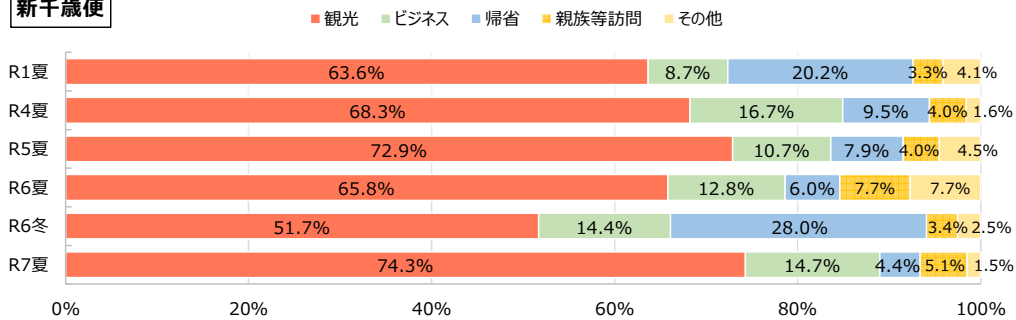
定期便全体



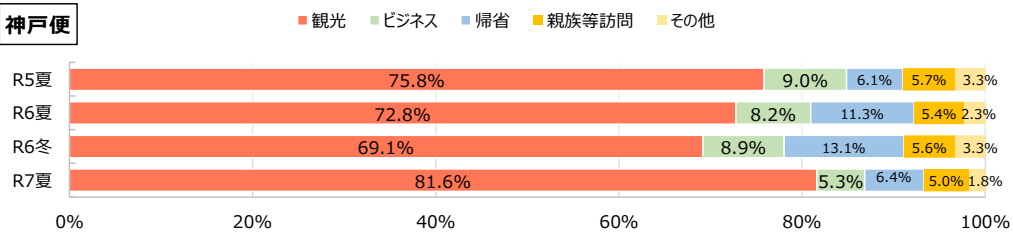
福岡便



新千歳便

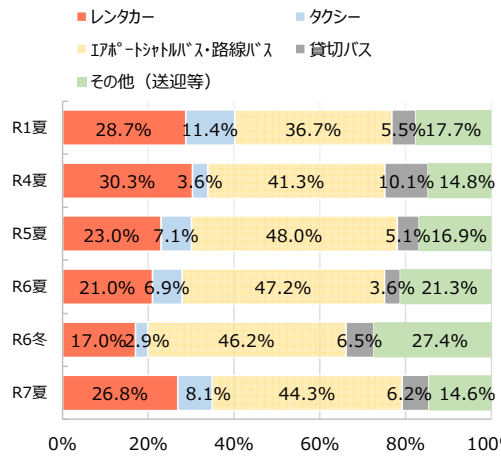


神戸便

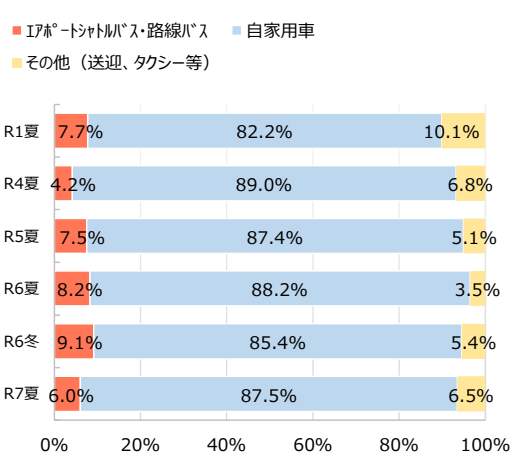


【参考(その他調査項目)】

空港への交通手段(県外利用者)



空港への交通手段(県内利用者)



利用者年齢層

